

Freude

vol. 19-33. 2026.7.1 wael

7/8 (水) 18:30 小田川
 7/11 (土) 13:15 大正会館 } 24
 (20) 13:15 生野区民 } 花
 15 (水) 18:30 小田川

みなさんに、ちょっと台所のお願い(^^;

団費を前倒し納入していただける方、お願いしたく!

ピンコ 現在
合計11万以内ある
アリアリ

対応が可能な方だけでモチロンかまいません、1ヶ月分だけでも m()m

総会時にダイドコロ事情はお話ししましたが、ちょっとピンチになってきました。

会計の仕分けとして、日常練習経費は団費から、演奏会経費はチケット代から、ですが、演奏会経費のうち、いずみホールの基本料金とチラシ代は、チケット代収入の前に支払いが発生します。ホール代は、基本料金 52.8 万円と当日の付帯設備費用約 22 万円に分けられ、付帯費は演奏会終了後の支払いですが、基本料金は 1/2 を 6ヶ月前 (3月末) 1/2 を 3ヶ月前 (6月末) に支払います。それと、チラシ代 150,700 円も 6月アタマのチラシ納入時に支払いました。なので、今現在、演奏会関連の費用を 52.8 万+15.07 万で 67.87 万円支払い済ですが、当然、そのオサイフ=チケット収入は無いので、団費収入から「借りて」支払っている状態です。団費収入は日常経費 (先生方への指導者謝礼と会場費用、団携帯等の事務費用) に充てるお金ではありますが、団費を前倒しで数か月分または全額前納してくれている方もいらっしゃるため、多少の余裕があり、ホール代やチラシ代にまわせました。ただ、6月末にホール代 2 回目を払った時点で、通帳残高が、7月分の練習経費喰った状態になりまして、...

みずも
アリアリ

チケット代の入金開始は7月29日なので、そこでだいぶ挽回できる見込みですが、今現在、7月を乗り越えるためのオサイフがショートしております\(\o\o)/!

みなさんも、いろいろシンドイ中、団費納入ルールを決めて捻出してくださっていると思いますが、もし可能であれば、少しでも前倒しまとめて払いをお願いしたいです。

チケット収入が入る7月末までがピンチなので、7月8月まとめて納めていただければ、9月からは通常通りでダイジョウブ予定。なんとかピンチを助けてください〜

そんなこんなで、いろ〜んな意味で、

チケットどんどん広めよう! いずみホールをお客様でいっぱいにしよう!

少なくとも 650 名、できれば、800 名のお客様に聴いていただこう!

☆ 9月13日(日)「フロイデ 21」ロビー応援大募集! 13時に甲東園に来れる人! ☆

♪ハイドン (1732~1809) 、モーツァルト (1756~1791) 二人の作品数はほぼ同じ！？

ハイドンは77年の人生、モーツァルトは35年の人生、それでは作曲数もハイドンが倍くらい？と思いますよね～。
ハイドンの作曲数は1000を超えるとも言われていますが、未完成や断片、偽作もあるため、それらを除くと700くらいだそうです。モーツァルトは、遺作となった「レクイエム」のケツヘル番号が626番。ただし、こちらも遺された断片も含めると900以上と言われているそうですし、あとから見つかったりするものもあるなど。。。

こうしてみると、ハイドンはモーツァルトよりも倍以上生きたけど、作曲数はほぼ一緒なんですね(◎o◎)！
しかし、「1000を超えるといわれているが700程度」とか、けっこう幅のある表現になっています、、、
この秘密が、ハイドンの楽譜に書かれているHob、モーツァルトの楽譜のK(またはKv.)に隠されています。
というわけで「作品番号」について、ちょっと調べてみました。

↓↓↓

作品番号は、Op.が一般的ですが、ほかにKやHobやDやいろいろあります。KやHobやDは、作曲家自身が番号を振らなかったため、あとから研究者が整理した番号です。

最も一般的に使われているOp.はラテン語の「作品」を表すオプスからきており、基本的には一人の作曲家の全作品を年代順にならべ、振られたものとされています。おおむね、作曲の若い順につけられ、作曲家が自ら付ける場合もありますが、18世紀以降、出版された1冊の楽譜を単位として与えられることも多いです。作品番号が用いられ始めたのは1600年ぐらいからだそうで、バッハやハイドンの時代にはすでに存在していたはず。

ところがハイドンにしろ、モーツァルトにしろ自分の曲を整理して付番するということをしませんでした。もっともモーツァルトなどは子供の頃から遊びのように作曲していたわけで、自分の作品に番号をつけるなんていうことは考えもしなかったでしょうけど。。。で、やはり、番号をつけて整理しないと誰の作品かわからない、不便！ということで、後世の学者が目録を整理しながら付番していったのがHobとかKとかBWVなどというわけ。以下代表的なもの。

《BWV》ドイツのヴォルフガング・シュミダーという人が整理した「バッハ作品目録」の頭文字をとったものです。

この番号は作曲順ではなく、ジャンル別に整理されています。

《K》ケツヘル番号はルートヴィヒ・フォン・ケツヘルがモーツァルトの作品を年代順に整理して付番したもので、Kと書かれることが一般的ですが、場合によってはKvと書かれることも。モーツァルトのケツヘル番号についてはその後いくつも改訂版がでています。有名な間違いとしてはK350「モーツァルトの子守歌」。「ねむれよいこよ～」と始まる美しい歌ですが、これはのちにフリースの作品であることがわかり、ケツヘル番号からも削除されたそうです。

《Hob》オランダのアントニー・ヴァン・ホーボーケンが著した「ヨーゼフ・ハイドン主題書誌学的作品目録」に従う番号。「J. ハイドン主題書誌学的作品目録」は、器楽編1957年、声楽編1971年、第3巻1978年、にそれぞれ出版。通し番号ではなく、ジャンル別につけられています。

《D》オットー・E・ドイッチュがまとめた「シューベルト作品総目録」の整理番号。シューベルトについても死後、世に出ていなかった作品が発見される度に番号の見直しが行われ、曲によっては2つのD番号があったりします。

《それ以外の有名なもの》ヘンデルのHWV、バルトーク作品のSz、ベルリオーズのH、ドヴォルザークのB、などの整理番号があります。